

ボアズとルツはキリストと召会を予表する

聖書：ルツ1:16-17. 2:1-3, 13-16. 3:9, 12, 15. 4:1-17, 21-22

I. ヨシュア記からルツ記までのイスラエルの歴史の部分の初めと終わりに、キリストを予表する二人の顕著な人物がいます。これらの人はヨシュアとボアズであり、彼らは一人の人の二つの面を表徴します——ヨシュア1:1. ルツ4:21-22:

A. 初めに、ヨシュアは、神の選ばれた民を神の定められた祝福へともたすことにおいてキリストを予表します。ヨシュアによって予表されたものとして、キリストはわたしたちを良き地の中へともたらし、わたしたちのためにその地を所有し、その地をわたしたちの嗣業としてわたしたちに割り当て、わたしたちに享受させました。キリストはわたしたちのために良き地を得ました。最終的に彼は良き地であり、わたしたちに享受させます。

B. 終わりに、ボアズは、わたしたちを満足させる夫としてのキリストを予表します。

II. ルツ記において、ボアズは次の各面でキリストを予表します:

A. ボアズは、富が豊富で気前よく与える人として (ルツ2:1, 14-16. 3:15)、キリストを予表します。キリストの神聖な豊富は計り知れず、キリストはご自身の満ちあふれる供給をもって神の窮乏の民を顧みます (エペソ3:8. ルカ10:33-35. ピリピ1:19)。

B. ボアズはルツの死んだ夫マロン血縁者として (ルツ2:3. 3:9, 12)、マロンの財産の失われた権利を買い戻し、マロンのやもめであるルツを自分の妻とし、必要とする相続人を生み出しました (ルツ4:9-10, 13)。彼が予表するのは、召会を贖い、召会を配偶者としてご自身を増し加えるキリストです (エペソ5:23-32. ヨハネ3:29-30)。

C. ルツ記によれば、ボアズはルツを贖い、彼女の長子の権を贖いました。このゆえに、彼はキリストの有名な父祖となりました——ルツ4:1-17, 21-22. マタイ1:5-6:

1. あなたは、兄弟またボアズとして、自分の長子の権だけでなく、他の人のキリストの長子の権をも顧みるべきです。言い換えれば、あなたは自分自身のキリストの享受だけでなく、他の人のキリストの享受をも顧みるべきです——エペソ3:2. I ペテロ4:10-11. マタイ24:45-47。

2. 仮に召会生活の中の愛する者たちがルツのようになり、彼らの長子の権に対する享受、すなわちキリストに対する享受を失うとします。わたしたちは、召会生活の中の多くのボアズが、これらの愛する聖徒たちをキリストに対する享受の中へと戻すことを必要とします。

3. ルツ記は、ボアズよりもルツに近いもう一人の血縁者があったことを告げています。しかし、その人は利己的であり、自分の長子の権だけを顧慮しました:

a. ある兄弟たちは、召会生活におけるあわれな「ルツ」のような者たちを顧みるべきですが、キリストに対する霊的な享受において利己的です——エゼキエル34:2-23。

b. 真のボアズであり、キリストに対する享受において豊かな人は、代価を払って

そのような聖徒たちをキリストに対する満ち満ちた享受の中へともたらしめます。彼は、このように他の人たちを牧養することによって、さらに多くのキリストに対する享受、キリストに対する最大の享受を持ちます。わたしたちは日ごとに他の人たちのキリストに対する享受を顧みるべきです——箴11:25. 使徒20:35. I ペテロ5:1-4。

D. ボアズのようになる者たちは、召会生活の中の柱です（宮の柱の一つは「ボアズ」と名づけられました——列王上7:21）。聖書の中で柱は、造り変えを通してからだの生活を実行することにおける神の建造のしるし、証しです——創28:22前半. 列王上7:15-22. ガラテヤ2:9. I テモテ3:15. 啓3:12. ローマ12:2. エペソ4:11-12 :

1. 召会生活の中の柱である者たちは、絶えず神の裁き（青銅）の下におり、自分が肉体の中にある人であり、死と葬り以外に何の価値もないことを認識しています——詩51:5. 出4:1-9. ローマ7:18. マタイ3:16-17 :

a. わたしたちは、自分自身が無であり、ただ十字架につけられるのにふさわしいと判断しなければなりません。わたしたちが何であっても、今のわたしたちがあるのは神の恵みによってであり、労苦するのはわたしたちではなく、神の恵みです——I コリント15:10. ガラテヤ2:20. I ペテロ5:5-7。

b. 信者たちの間の分裂と不毛の理由は、青銅がないこと、すなわち神の裁きがないことです。それどころか、高ぶり、自己を誇り、自己弁護し、自己を正当化し、自己を良しとし、自己弁解し、自己を義とし、他の人たちを罪定めし、他の人たちを規制しており、他の人たちを牧養せず、尋ね求めません——マタイ16:24. ルカ9:54-55。

c. わたしたちが主を愛し、彼を青銅の人として経験するとき（エゼキエル40:3）、彼は、わたしたちの超絶した愛、限りない謙虚溫柔、無上の信実、極みまでのへりくだり、徹底した純潔、至高の聖と至高の義、明るさと正しさとなります——ピリピ4:5-8。

2. 宮の柱の柱頭には「格子細工の網 [格子棚のような] と鎖細工の飾りひも」がありました。これらは錯綜する複雑な状況を表徴します。神の建造の中で柱である人たちは、そのような状況の中で生き、責任を担っています——列王上7:17. II コリント1:12. 4:7-8。

3. 柱頭の頂には、ゆりとざくろがありました——列王上7:18-20 :

a. ゆりが表徴するのは、神にある信仰の生活、すなわち、わたしたちが何であるかによってではなく、神がわたしたちにとって何であるかによって生きる生活です。青銅は「わたしではない」を意味し、ゆりは「しかしキリスト」を意味します——雅2:1-2. マタイ6:28, 30. II コリント5:4. ガラテヤ2:20。

b. 柱頭の飾りひもの上のざくろは、命としてのキリストの豊富の豊満、満ちあふれと美しさ、表現を表徴します——ピリピ1:19-21前半. エペソ1:22-23. 3:19。

c. 網細工の除き去ることと鎖細工の抑制することを通して、わたしたちは神に信頼する純粋で単純な生活を送り、命における神の建造のために、キリストの神聖な命の豊富を表現することができます。

- Ⅲ. この明るくかぐわしい物語において、ルツは次の各面において召会を予表します：
- A. ルツは神の創造において、アダムにある女、人の墮落におけるモアブ人の女（罪人）であり、こうして、二つの部分を持つ古い人となりました。ルツが予表するのは、救いの前の神の創造における人、また人の墮落における罪人としての召会が「わたしたちの古い人」であるということです——ローマ6:6。
 - B. ルツは死んだ夫のやもめであり、ボアズによって買い戻されました。ボアズは彼女の死んだ夫の負債を清算し、彼女の死んだ夫の財産に対する失った権利を回復しました（ルツ4:9-10）。この面で、ルツはキリストによって贖われた召会を予表します。召会の古い人は、十字架につけられた夫であり（ローマ7:4前半、6:6）、キリストは召会の古い人の罪を清算して（ヨハネ1:29）、神が創造し墮落した天然の人の失われた権利を回復しました（創1:26、イザヤ54:5）。
 - C. ルツはボアズによって買い戻された後、彼の新しい妻となりました（ルツ4:13）。こうして、彼女は救われた後の召会を予表し、召会の天然の人を再生することを通して（ヨハネ3:6後半）、キリストの配偶者となりました（29前半、ローマ7:4）。
 - D. ルツがナオミについて行ってイスラエルの地に行くことを選び（ルツ1:16-17）、ボアズに結び付けられたことが予表するのは、異邦人の罪人がキリストに結び付けられ（Ⅱコリント1:21）、神の約束の嗣業にあずかることができるということです（エペソ3:6）。
- Ⅳ. ボアズ（わたしたちの新しい夫としてのキリストを予表する）とルツ（古い人が十字架につけられた夫となっている召会を予表する）の絵は、ローマ第7章1節から6節でパウロによって語られています：
- A. 神の創造において、人の本来の地位は妻の地位でした。イザヤ書第54章5節は、わたしたちの造り主である神は、わたしたちの夫であると言います。わたしたちは神の妻として、彼に依り頼み、彼をわたしたちのかしらとしなければなりません。
 - B. 人は墮落したとき、別の地位、すなわち古い人（神によって創造されたが、罪を通して墮落したわたしたちの存在）が自分で取った地位を取りました。神によって創造された人は妻でしたが、墮落した人は神から独立し、自分自身を夫としてのかしらとしました。
 - C. 古い夫であったわたしたちの古い人がキリストと共に十字架につけられたので（ローマ6:6）、わたしたちはその律法から解放され（7:2-4）、新しい夫、すなわち永遠に生きています方であるキリストに結合されます。
 - D. わたしたちは信者たちとして二つの身分を持っています：
 - 1. わたしたちは墮落した古い人としての古い身分を持っています。古い人は、神に依り頼む妻という本来の地位から離れ、自分で取った夫とかしらという地位を取り、神から独立しています。
 - 2. わたしたちは再生された新しい人として、新しい身分を持っており、神に対する真の妻としての当初の正当な地位に回復され（イザヤ54:5、Ⅱコリント11:2-3）、神に依り頼み、神をわたしたちのかしらとしています。
 - E. わたしたちはもはや夫の古い身分を持っていません。なぜなら、わたしたちは十字架につけられたからです（ガラテヤ2:20、ローマ6:6）。わたしたちは今や正当な妻

の新しい身分だけを持っています。その身分においてわたしたちはキリストをわたしたちの夫としており、もはや古い人にしたがって生きるべきではありません（もはや古い人をわたしたちの夫とすべきではありません）。

- F. ローマ第7章4節で、パウロは葬儀と婚礼を一緒にしています。一方で、わたしたちは葬られました。他方で、わたしたちは結婚しました。わたしたちは、わたしたちの古い身分によれば、死んでいたのです。それはわたしたちがわたしたちの新しい身分にしたがって、別の方と結婚するためです。わたしたちの新しい身分によれば、わたしたちは死人の中から復活させられた彼と結婚し、神に対して実を結びます。
- G. わたしたちの古い人、わたしたちの古い夫は、キリストと共に十字架につけられました。それはわたしたちが「別の方、すなわち、死人の中から復活させられた方に結び付いて、わたしたちが神に対して実を結ぶためです」（4節）。このように結び付くことが示すのは、妻としてのわたしたちの新しい身分において、わたしたちはキリストの復活の中で、パーソン、名、命、存在においてキリストとの有機的な結合を持つということです。
- H. 再生された新しい人またキリストの妻として、わたしたちであるすべてと、わたしたちが行なうすべては、今や神と関係があります。神は命の実、またあふれ出として、わたしたちによってもたらされます。これは死に至る実と対照的です（ローマ7:5）。死に至る実は、古い人、古い夫であったわたしたちによって以前もたらされたものです。
- I. わたしたちは今や、わたしたちの霊の中で命を与える霊としての復活したキリストに結び付けられています。これは、「その霊ご自身、わたしたちの霊と」結合して（ローマ8:16）、「一つ霊」となることです（I コリント6:17）：
1. わたしたちは全存在を、この結合された霊に向け、この結合された霊に付けるべきです——ローマ8:6後半。
 2. わたしたちはこの結合された霊にしたがって生き、歩くべきです——4節。
 3. わたしたちはこうしてこの結合された霊の中で生きるとき、キリストのからだを生かし出して、キリストの団体的な表現となり、三一の神に栄光を得させることができます——エペソ1:23. 3:21. I コリント10:31. I ペテロ4:11. 啓21:10-11。